

初心忘るべからず・一年の計は元旦にあり

今から600年以上も昔の室町時代に、「初心忘るべからず」と唱えた人がいます。それは、能を大成させた世阿弥です。世阿弥の言う“初心”とは「物事をはじめたばかりの謙虚な気持ちや初々しい志」のことですが、ここでいう“初心とは、「はじめての物事にぶつかる未熟な状態」の事です。簡単に言えば初心者を表します。

私たちは、昨年元日に未曾有の大災害を初めて経験しました。決して世阿弥の言う「未熟な状態」だったのではなく、そのときは誰もが「初心者」だったのです。

初めて経験した出来事を忘れず、培った経験を糧にして、自分や能登の皆様のよりよい未来や成長を信じて、前に進もうというのがわれわれの「初心忘るべからず」だと思います。

「一年の計は元旦にあり」は、戦国武将の毛利元就が語ったとされる言葉を由来とする表現だそうです。言葉通りの意味もありますが、詳しくは、一年の計画は春に立て、一か月の計画は朔（ついたち）に立て、一日の計画は鶏鳴（けいめい、一番鶏が鳴く早朝）に立てることを意味します。

新年は、文字通り新しい始まりを意味します。この時期に、私たちは過去を振り返り、新たな目標や計画、夢を設定することが一般的です。多くの方は新しい年を迎えるとき、「初心忘るべからず」と「一年の計は元旦にあり」という言葉を心に刻むことでしょう。この2つの言葉は、新しい年のスタートとともに、自己改善や目標達成に向けての意識を高めることの重要性を教えてください。

自分自身の経験からの学びを含め1年を振り返り、実現可能な目標を持ち、初心を忘れず努力を続ければ、1年1年成長し続けることができると考えています。一度できたからといって習得したものを忘れてしまっては、過去に培ったものが全て身についていないことになります。いつまでも成長し続けようという強い気持ちをもって、自分の未熟さを忘れないことが大切です。

3学期の始業式には校長先生から、1年後そして10年後のなりたい自分を想像し、目標を持って頑張りたいというお話がありました。医王山小中学校で学ぶ児童生徒には、常に成長し続けるために、“初心”と“一年の計”を忘れず頑張りたいと願っています。

2025年も引き続き、本校の教育活動にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



令和6年度卒業証書授与式 3月15日(土) 受付9:20 開始10:00

※詳細につきましては、後日お知らせいたします。

書き初め 1/7 (火)

1月7日(火)に小学校で校内書き初め大会を行いました。

小学3年生～6年生は、毛筆で力強くのびのびとした文字を用紙いっぱい書いていました。小学1、2年生は鉛筆とフェルトペンで一生懸命に書きました。どの作品も甲乙つけがたく、「今年も頑張るぞ」という気持ちが伝わってきました。

中学生は、冬休みに仕上げた1枚を各教室に掲示しました。中学生らしく力強く整った作品が並びました。また中学生6名の作品が、金沢市内中学校書き初め展(1月22日～2月3日)に泉野図書館で展示されます。是非ご覧下さい。



小・中一小中合同展(21世紀美術館) 1/4(土)～14(火)



今年度も、金沢市内小中学校の書写・図工・美術の作品が、21世紀美術館に一堂に会しました。本校作品も、書写は選抜、図工・美術は全員の分が飾られました。

どの作品も児童生徒の思いが詰まった素晴らしい作品で、ギャラリーいっぱいには彩られた作品は、訪れたたくさんの人たちの目を楽しませていました。

この中から、未来の巨匠が現れることを期待しています。

小6 - 紙すき 1/21(火)

小学6年生が、二俣の齊藤博さんの工房でご指導いただき、卒業証書に使うため二俣和紙をすいてきました。

難しい作業でしたが、世界で一枚しかない自分だけの二俣和紙での卒業証書を完成させました。

卒業式で受け取るのが楽しみです。



中1 - そば打ち体験 1/20(月)



中1のそば打ち体験がありました。地元の大瀬さん、寺井さん、中井さんの指導のもと、中学1年生が心を込めてそばを打ちました。そば粉からつくるのは難しいですが、みんな手際よく上手にできました。中学2・3年生、先生方に振る舞いました。美味しく頂きました。

